

呼び方が違ってても乱用薬物です。

「薬物乱用は暴力団関係の人たちだけの問題」と考えている人がまだ多いのではないのでしょうか。確かに以前は一般の人々が覚醒剤などの薬物を手に入れるのは容易なことではありませんでした。しかし、最近では子どもたちでも、簡単にこれらの薬物を手に入れることができるようになってきています。密売の手口も巧妙です。例えば駅周辺で外国人が気軽な雰囲気です声をかけてきたり、携帯電話やインターネット、メール便などを利用するなど、顔を合わせないですむ方法でも密売されています。このように容易に行なわれる密売がファッション感覚と結びついて、薬物乱用を増大させています。「エス」「スピード」「チョコ」「エクスタシー」などの呼び方も薬物が持っている危険性や薬物使用に対する抵抗感を覆いかくし、子どもたちを誘惑します。

薬物のいろいろな俗称

● 覚醒剤	エス、スピード、アイス、シャブ、氷
● 有機溶剤(シンナー・トルエン)	アンパン
● 大麻(マリファナ)	ハッパ、チョコ、クサ、野菜
● ヘロイン	ペー、チャイナホワイト、ジャンク
● コカイン	コーク、スノウ、クラック
● MDMA (錠剤型合成麻薬)	エクスタシー、バツ(「×」、「罰」)、 タマ(「弾」、「玉」)
● PCP	エンジェルダスト

薬物乱用は1回だけでもダメ。

私たちの脳は、20歳頃まで成長するといわれています。とくに、小学生、中学生、高校生の時期は、心身ともに発達するときです。

家庭や学校で学び、家族、先生や友だちと話し合うことで、知識やものごとの考え方を学び、自分らしさを発見していく大切な時です。

この時期に薬物を乱用すると、脳や身体の成長がストップし、感情のコントロールができず、意欲がなくなる、怒りっぽくなるなど、心身の発達がそこなわれ、家族や友だちとのコミュニケーションもできなくなってしまう。そして、健康な社会人となることができなくなるのです。結論は薬物乱用は1回でも「ダメ。ゼッタイ。」ということです。